

景気動向調査

操業度が上昇し、採算も徐々に改善

調査概要

調査対象：県内中小企業 300 社

調査時点：平成 29 年 4 月集計

調査方法：アンケート調査方式（回収率 83.3%）

概況

売上は回復基調鮮明に

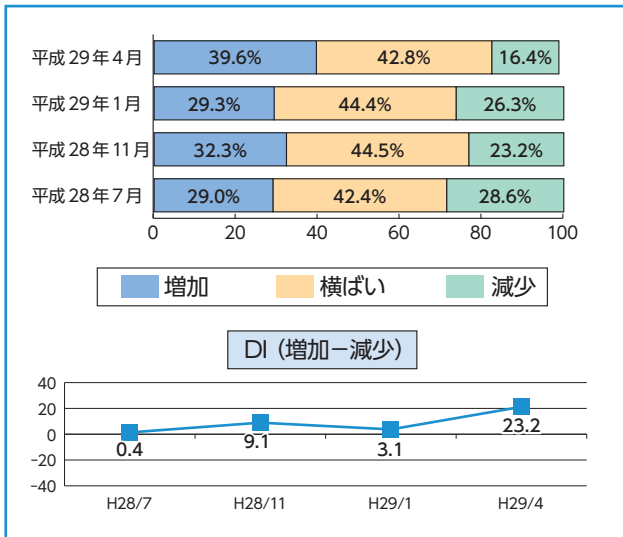
売上額が増加したと回答した企業は、前回調査（平成29年1月）の29.3%から39.6%へ10.3ポイント増えた。横ばい回答を含めると82%を超えており、少なくとも売上については回復基調が顕著になっている。おおむね3か月先の見通しも、増加ないしは横ばいと答えたところが80%近くに達しており、見通しも暗くはない。

売上額

DIが大幅アップ、11業種で増加回答

売上DIは前回調査の3.1から23.2へ、大きく増加した。売上が減少したところは前回の26.3%から16.4%へ10ポイント近くも減少。企業活動が活性化していることがうかがえる。業種別でも全12業種のうち、増加と減少が同数だった「ゴム」以外の11業種で増加回答が上回った。増加回答が目立った業種は「機械」（増加44%、減少14%）、「電機」（同48%、同9%）、「繊維」（同50%、同0%）、「卸売・小売業」（同60%、同10%）など。前回調査で減少回答が目立った「鉄鋼・非鉄」「輸送」などの業種も増加回答が逆転した。

※DIは増加した企業割合から減少した企業の割合を引いたもの

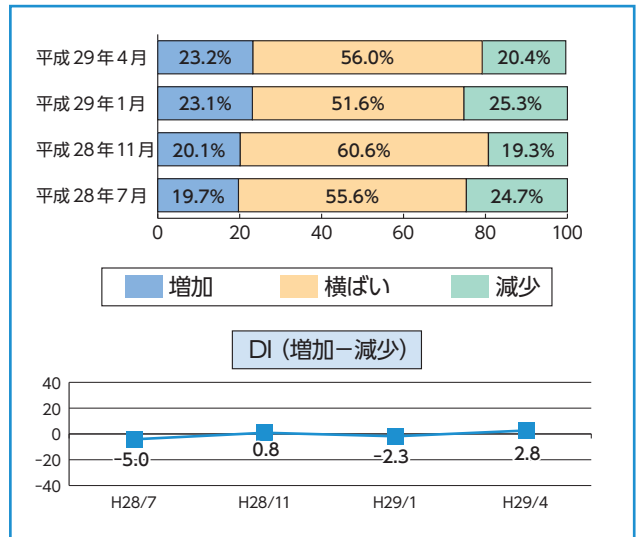


売上額の見通しについて (3カ月位先)

DIはプラスに転じる

増加回答は前回調査と横ばいの23.2%。ただ「横ばい」回答が前回の51.6%から56.0%に増えており、好調を継続している模様だ。これに伴い、DIも前回のマイナス2.3からプラスに転じ、2.8となった。

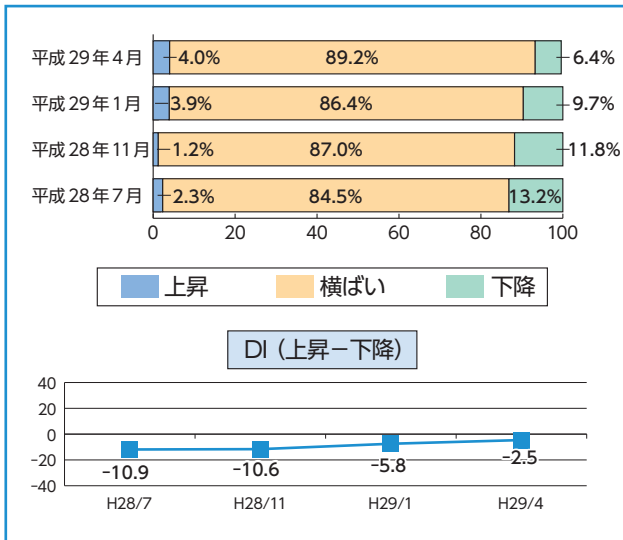
ただ増加が減少を上回った業種は「金属」「機械」「電機」「輸送」「繊維」「その他」「サービス業」の7業種にとどまった。逆に減少回答が多かったのは「鉄鋼・非鉄」「プラスチック」「ゴム」「ソフトウェア」「卸売・小売業」の4業種。「プラスチック」は同数だった。増加回答が目立った業種は「繊維」（増加50%、回答0%）、「サービス業」（同60%、同20%）など。半面、増加回答が多かった業種でも「金属」「機械」などは減少回答も多く、必ずしも楽観できる状態ではないかもしれない。



販売価格 (受注単価) について

改善回答が上回ったのは2業種のみ

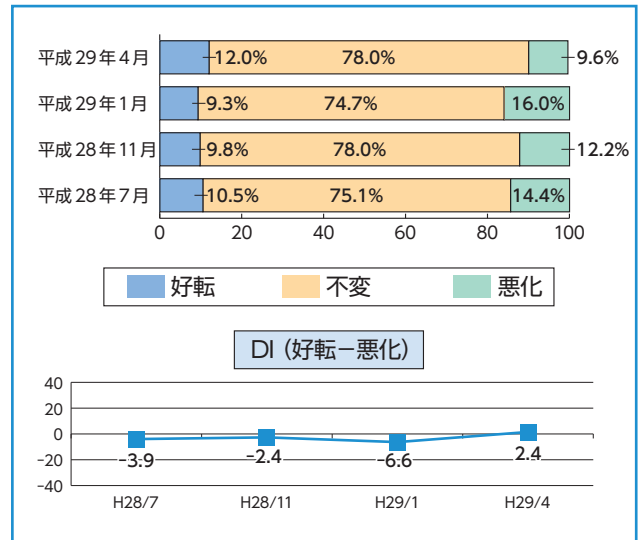
引き続き低調に推移している。「上昇した」と答えたところは前回の3.9%から微増の4.0%だった。横ばい回答は同86.4%から89.2%に増えており、大きな変化は見られない。ただDIは改善しており、前回のマイナス5.8から同2.5とマイナス幅が縮まった。上昇した業種は「金属」「その他」の2業種のみ。上昇と下降が同数だった「鉄鋼・非鉄」「輸送」「ゴム」「繊維」「サービス業」以外の5業種は下降回答が上回った。とくに「プラスチック」「繊維」「ソフトウェア」など6業種では上昇回答がゼロだった。引き続き価格改定が求められる。



資金繰り

DIは大幅に改善

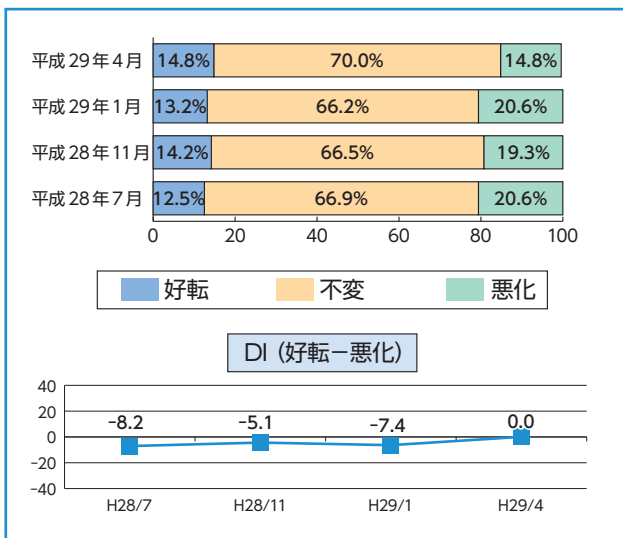
好転回答が12.0%と、前回調査から2.7ポイント増加した。横ばい回答を含めると90%に達しており、徐々にではあるが改善している。DIもプラスに転じ2.4となった（前回調査はマイナス6.6）。好転回答が悪化を上回ったのは「鉄鋼・非鉄」「金属」「電機」「プラスチック」「ソフトウェア」「サービス業」の6業種だった。極端に悪化回答が多い業種は少ないが、「繊維」は好転回答がゼロだったのに対し、悪化したところが25%あった。DIは好転しているものの、引き続き注意を払う必要がある。



採算状況

徐々に改善

好転したところは前回の13.2%から14.8%へ1.6ポイント増加した。横ばい回答も70%あり、採算はある程度改善していると思われる。DIもマイナス傾向が続いていたが、今回は0.0と改善した（前回調査はマイナス7.4）。しかし好転回答が悪化を上回ったのは「金属」「輸送」「プラスチック」「ソフトウェア」「その他」の5業種にとどまった。悪化回答が目立ったのは「ゴム」「繊維」などの業種で、いずれも好転回答はゼロだった。



操業度 (ソフトウェア、卸売・小売業、サービス業は除く)

全業種とも
高水準で推移

対象となる9業種のうち、「ゴム」を除く8業種で操業度が上昇している。DIも前回調査の8.6から14.6へ、6ポイント向上した。上昇回答が目立ったのは「鉄鋼・非鉄」（上昇21%、下降5%）、「機械」（同26%、同10%）、「電機」（同43%、同10%）、「繊維」（同50%、同0%）など。操業度は全業種とも、引き続き高水準で推移している。上昇回答がゼロだった「ゴム」も、横ばい回答が75%を占めており、下降回答はごくわずかなので懸念材料とはいえない。

